

上北沢桜並木通信 第 14 号

文化祭にお集まりください - 11月3日(土)・4日(日) -

区民センター文化祭で、講演会「ソメイヨシノの不思議」(講師：相場芳憲氏)と影絵DVDの上映会「世田谷区の昔話」(石井 昭氏作)を行いますので、ご家族やお知り合いの皆様お誘い合わせの上、多くの方々のご参加をお願い申し上げます。

講演会

題名：「ソメイヨシノの不思議」

(副題) だいじょうぶ？上北沢の桜並木

講師：相場芳憲(あいばよしのり) 東京農工大名誉教授

日時：11月3日(土) 12:00～12:50

場所：上北沢区民センター 1階ホール

【相場芳憲 先生のプロフィール】

現在、東京農工大学名誉教授であるかたわら、都立代々木公園ボランティア会員や豊島区かんきょう観察員として、下記のような地域や街づくりの活動に活躍。

- ・かんきょう観察員として豊島区民参加の環境調査・学習活動に尽力
- ・くにたち大学通りの桜並木鑑定
- ・目白の森での樹木観察と樹名板付け(豊島みどりの会)

影絵DVD 上映会 <企画制作：上北沢桜並木会議>

題名：「世田谷区の昔話」 石井 昭(いしいあきら)氏作

【上映作品】・お寺の招き猫

・狸の恩返し

・さくらわらし

・その他：

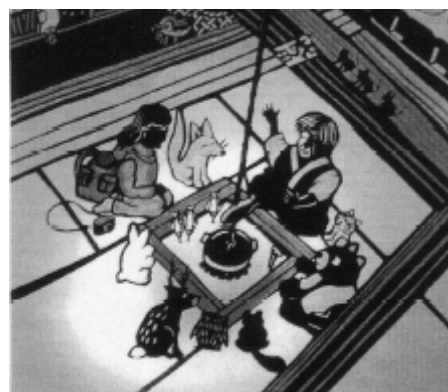
月のひかり(前記フォトキナ
受賞作品)

神田川、光響詩小江戸など

日時：11月4日(日)

14:30～15:30

場所：上北沢区民センター 2階音楽室



【石井 昭氏のプロフィール】

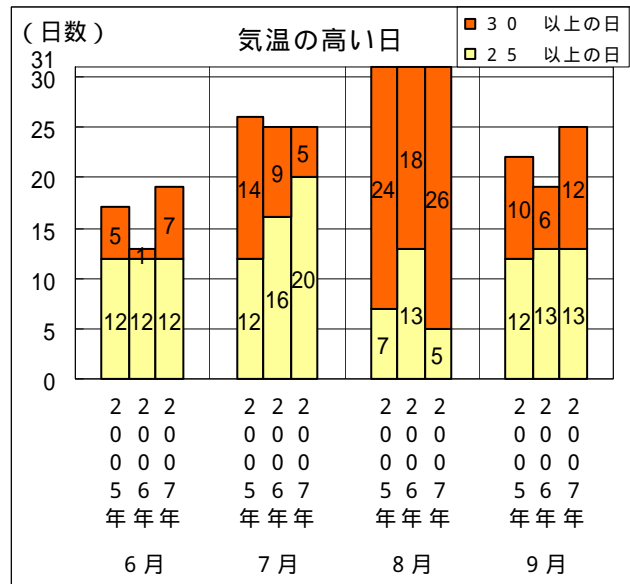
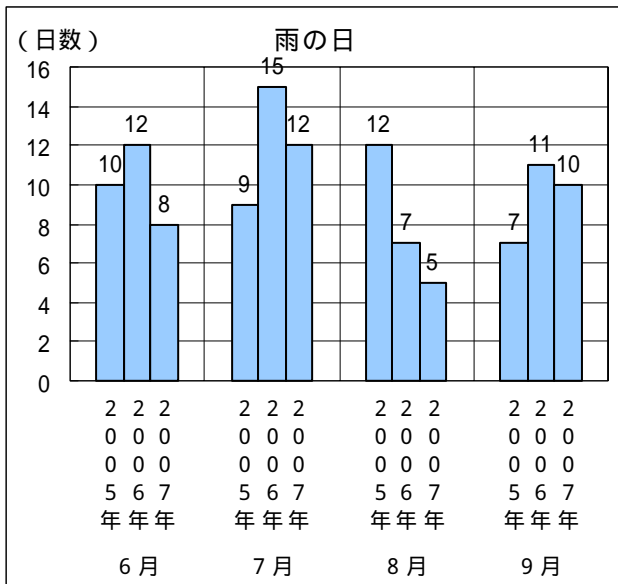
1933年カナダ・バンクーバー生。独学で影絵の技法を習得。学研の児童画家養成の会「童夢の会」、YMCA漫画スクールなどで作画、イラストの技法を学ぶ。青年座、芸術座などの舞台背景映像、東映ほかのカラオケ映像、ローカルテレビの番組などを多数制作。ドイツケルン・フォトキナの映像コンテスト、アメリカAMIコンテスト、マルチメディアグランプリ、日本映画テレビ技術協会、地方の時代映像祭等において多数の賞を受賞(上北沢在住)

次回定例会：11月20日(火) 18:30～ 上北沢区民センター第1会議室

2007年 秋の実態調査を終えて - 9月30日 -

2007年秋9月30日上北沢桜並木の実態調査とセミナーを終えた。今回の路上での調査は、雨の中で30分と、短くも石井樹木医と共に凝縮された調査確認をすることができた。また、セミナーでの勉強も今後の指針となった。

概況：過去3年間の夏の天気（6月から9月まで4ヶ月の雨天の日と最高気温）を概観すると、今年の暑さが異常で、雨の日が多かったとは一概には言えない。



(資料：Weather Eye、データベース)

しかし、9月の気候は、例年にも増して暑さが続いた。

このことが、桜並木のすでに夏ばての桜木に追い討ちをかけ、樹勢を弱らせた。そして、毛虫の大量発生やキノコの活動を休眠から目覚めさせたのだと石井樹木医は指摘する。

とくに、桜木に致命的な影響を及ぼす3種類のキノコ（ナラタケモドキ、コフキササルノコシカケ、ベッコウダケ）がこの1ヶ月の間に新たに著しく発生または既存の休眠中キノコが成長し、桜並木の多数の桜木に影響を及ぼした。

しかし、全体の桜並木を見ると、更新がより促進されたと言える。9（巻末図参照以下同）は、胴巻きをはずしてから、順調に回復している。18は、胴巻きによって、新たな不定根が成長し、今では、新たな幹となって世代の更新がなされている。29は、腐朽部分にキノコの発生が一時続いたが、枝きり等によって回復してきている。ただ樹形は悪い。No.44、45も樹形は悪いが、胴巻きによって、復活した。問題の26、27の車衝突後の桜木は、どのような経過なのか。車による大きな枝の折れが、むしろ、そこに、消毒、胴巻きをして、養生することで、枝きりと同様な効果を生んでいるのではないか。見事な新しい枝が出現して育っている。

今年の夏過ぎ、桜並木の生育状態に悪影響を及ぼす次のことが実際に起こった。

毛虫発生：昨年は、モンクロシャチホコが、32に発生しただけであったが、今年は、



5月に2箇所、9月には8箇所になった。モンクロシャチホコの存在はすぐ分かる。葉を食い荒らしているモンクロシャチホコの糞（直径1～2mm大）が下に落ちているからである。一面、黒い小さな糞で覆われている道路の上を見るとモンクロシャチホコが食事をしているのである。しかし、やがて、1日も経つと、壁や幹を伝わって地面に下りていく。そして、地面にもぐってさなぎとなる。

毛虫

今年のモンクロシャチホコは、他の樹木から蛾が飛んできた可能性が大きい。となると、来年5月は、大量発生に気をつける必要があるようだ。人体には影響は無いが、5月発生する毛虫は、若葉を食い散らす。樹勢に影響がありそうだ。

今年、世田谷区の公園管理事務所は、毛虫発生に対し、住民の通報を受けて、迅速に対応していただいた。薬剤散布は発生した枝のみの散布となったため、何回も散布していただいた。

キノコの増大：昨年までキノコは休眠していて、今年になって一気に活動を活発にさせたのだろうか？ 5が9月、2週間でまったく枯死した。ナラタケモドキによる根株の腐朽が原因である。

外観の葉が、茶色になった変化以外には、キノコが現れたりした形跡は無く、幹自体はまったく健全である。ただし、9月には、土の上に現れたわずかな毛根の先に1～2mm程度の傘をつけたキノコが顔を地面に近づけてよく見ると、多数見られていたのであった。



5 枯死



41 ナラタケモドキ

そして、41では、若木ではあるが、これも根元に現れたナラタケモドキがあった。従って、葉は、薄くなり、樹勢は衰えて、枯死寸前である。

40があった場所は、もともとナラタケモドキに侵され、桜木が枯死した。今回、その道路を挟んだ向かいの桜木5と隣の41がナラタケモドキによって枯死に至ったことを考えるとこの周辺は、ナラタケモドキの菌糸が蔓延していて、条件（気候による樹勢の衰え、十分な水分や適度な

温度）が備われれば、ナラタケモドキが眠りからよみがえってくるようだ。

32は、根元のマンネンダケによって以前から侵されていたが、進行は無かった。今年9月以降、2箇所のマンネンダケは活動著しい。

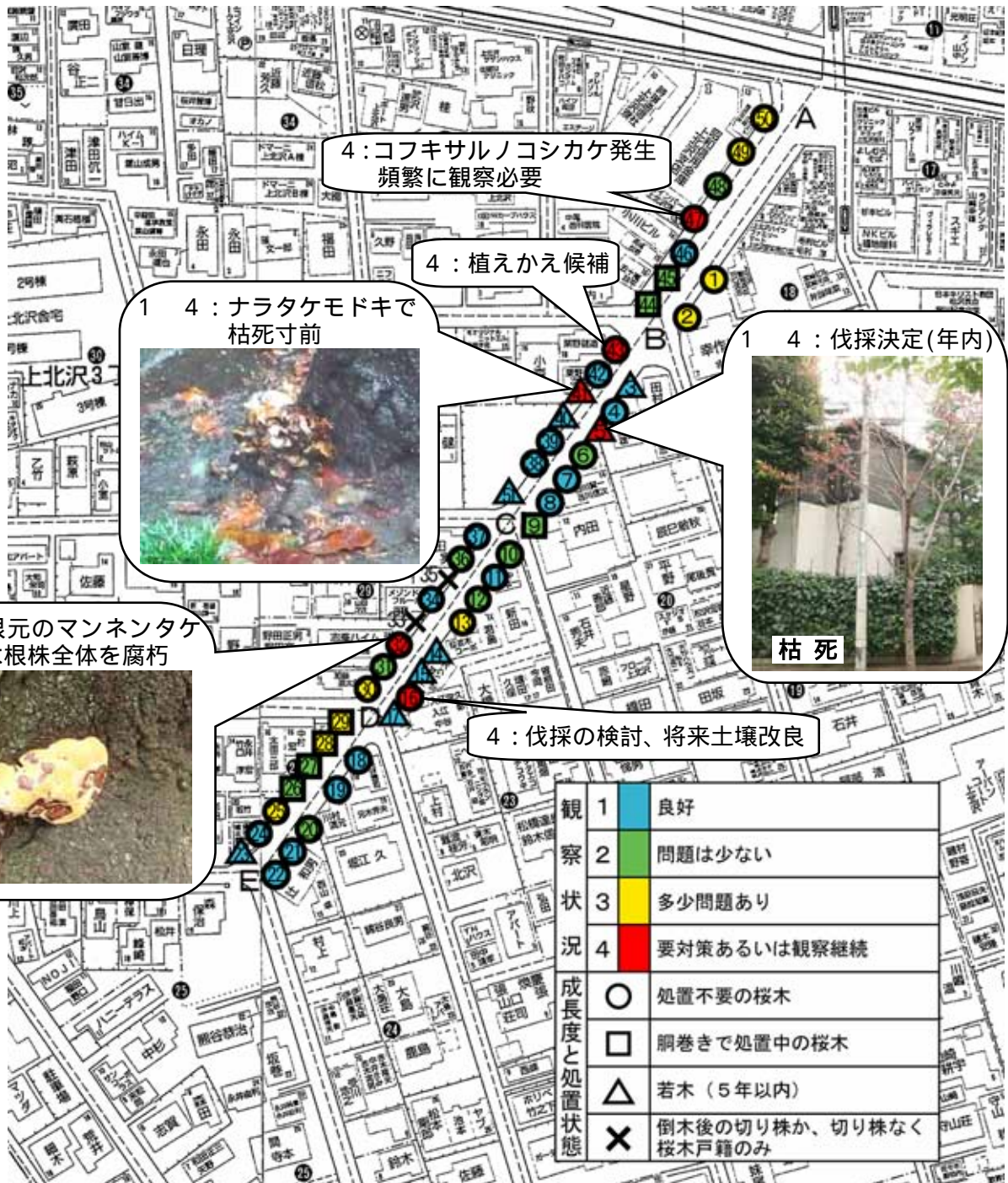
47は、コフキサルノコシカケが、いよいよ進行して、樹木の半分をぼろぼろにさせている。今年の台風で、10cmほどの枝が折れた。いつ大きな枝が折れてもおかしくない危険な木なのである。

（佐藤信二郎 記）



32 マンネンダケ

桜診断位置図



上北沢桜並木会議とは？

上北沢駅前の桜並木は、80余年前に開発された住宅地に植えられ、その後、地域のシンボルとして、地元の人々に親しまれながら、近代化の時代の流れの中を生き抜いてきました。

桜並木を中心とした街区は、昭和59年には「せたがや百景」に、平成14年には「世田谷風景づくり条例」に基づく「地域風景資産」に、選ばれています。

桜を大切にすることを種として生まれた、上北沢桜並木会議は、地域のコミュニティとしての役割を果たすことをめざしています。毎週日曜日に行う日曜ミーティングと、烏山総合支所からもご出席いただいている月1回の月例会における話し合いをもとに活動しております。

お問い合わせ：info@sakuranamiki.org

連絡先: 和田和典 3302-6959 佐藤信二郎 3290-2660

桜並木会議では、会員の数を増やし、地域のコミュニティとしての役割を果たすことをめざしています。

桜並木会議が行う行事・ミーティング等に、是非ご参加下さい。

桜並木会議では、活動資金のご協力をお願いしています。

桜並木会議の活動状況は、HP(<http://www.sakuranamiki.org/>)に出ていますので、ご覧下さい。